

視覚情報を活用した
コミュニケーションツールの有効性と
導入・活用する上で気を付けておきたいこと

社会福祉法人 桑の実会
障害福祉サービス事業所 桑の実工房
理事長 桑園 英俊

〒807-0075
北九州市八幡西区下上津役3丁目1番26号
TEL/FAX 093-612-6045
MAIL kuwanomi@icomhome.ne.jp
HP <http://www.kuwanomi.org/>

1

あなたが
「あの人と話がしたいなあ」
と感じる人は どんな人

2

コミュニケーション支援（受信と発信）

- 本人に
「分かりやすく」
伝えるための支援
- 本人が
自分の気持ちを
伝えるための支援

3

本人に分かりやすく伝えるとは？

本人が最も理解できる
情報で伝える

- 聴覚（話し言葉）で伝える
- 視覚（文字・絵・写真・具体物 等）で伝える
- その他の感覚を使って伝える

4

本人の特性を理解する

- 障害の有無や障害種別でなく
まず、本人の実態と特性を理解する

本人が最も活用しやすいコミュニケーション手段は何か

- 聴覚優位
- 視覚優位
- ノンバーバル優位
- その他の優位な感覚

5

本人が分かるために

アセスメントの重要性

- コミュニケーションに関するアセスメント
- 日常生活での観察
 - * 話し言葉
 - * 文字（平仮名・漢字）・絵カード・写真・動画

6

発達段階に応じた視覚情報提示 <具象→抽象>

実物 → 写真 → 絵 → スリッパ
文字

7

知的障害・発達障害の特性を理解する

- 知的障害の特性
 - コミュニケーションに障害がある
 - 短期記憶力が弱い
 - 時間の概念の理解が困難
 - 認知や言語等の知的機能が弱い
- 発達障害の特性
 - 社会性に障害がある
 - コミュニケーションに障害がある
 - 言葉の遅れがある
 - 曖昧な指示に混乱する
 - 比喩や冗談の理解が困難
 - 非言語表現を理解が困難
 - 行動の障害

8

知的障害の方達への視覚支援の有効性

- 記憶をサポート
- 時刻や時間の量を視覚化
- スケジュール・見通しの視覚化
- 手順の視覚化
- 曖昧な表現の具体化と共有
- 気持ちや要求の表現をサポート

9

視覚支援の有効性①

記憶をサポートする

- 繰り返し見て確認することができる
- 短期記憶力の弱み（知的障害の特性）を補う

10

記憶を視覚情報で支援する

事例【MY夢】

- 「今、何の作業なのか分からなくなって混乱しないように」
- 短期記憶力の弱み（知的障害の特性）を補う

11

記憶を視覚情報で支援する

「自分の席に座ってください」

視覚支援 【記憶の保持が困難な方】

「自分の写真がある席に座って下さい」

事例【桑の実工房】

12

視覚支援の有効性②


時刻や時間の量を
視覚化する

- 何時間後、明後日等、時間の概念を補う
- 目に見えない時間を量で見せる

13

13

時刻と時間の流れを視覚・聴覚情報で伝える



事例【ほうぼく】

事例【夢つむぎ】

- 終りの時刻を視覚化する。
- 目に見えない時間をデジタルで見せ、音で知らせる

14

14

視覚支援の有効性③

スケジュールと見通しを
視覚化する

- 次の予定を具体的に捉えることができる
- 見通しを持って行動することができる
- 絵や写真は具体的にイメージを共有できる

15

15

スケジュールと見通しを可視化する



事例【たんぼぼ】

事例【夢つむぎ】

- 色で午前と午後の活動を区別する
- 一日でなく、近接する3つのスケジュールを提示する

16

16

視覚支援の有効性④

手順を視覚化する

- 説明文・図・写真等、本人がわかりやすい視覚情報で
- **動画は**、より具体的に効果的な視覚情報

17

17

手順を視覚化する



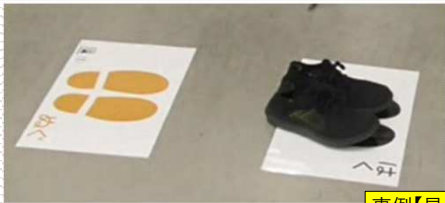
事例【のんびり学園】

- どんな場面で どうすれば どうなるのかを伝える
「泣き声が聞こえたら イヤーマフを付けたら 気持ちいいよ」

18

18

手順を視覚化する

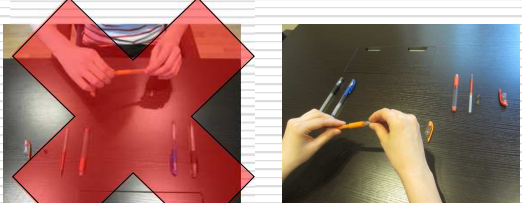


事例【星の子】

- 靴を脱いで履き替えるまでの手順
- 靴の左右を間違えずに置くための視覚支援

19

手順説明時＜提示・動画＞の留意点



対面提示 並列提示

20

19

20

視覚支援の有効性④

曖昧な表現を具体化する

- お互いのイメージを共有する
- 仕上がり、最終形を明確にする

21

21

視覚支援の有効性⑤

× 「このへんの 草 ととって」


■ 「赤テープの中の 草を全部抜いて」



22

22

視覚支援の有効性⑤



事例【千歳学園 実際は動画】

- お互いのイメージを共有する
- 発達段階・年齢に応じて**動画**で提示する
- IT機器の活用・次世代のコミュニケーションツール

23

23

視覚支援の有効性⑥


自分の気持ちを伝えることをサポートする

- 不快＜苦しさ・きつさ・辛さ・痛み＞を伝えられる
- 欲求＜眠たい・食べたい・動きたい＞を伝えられる
- 依頼＜連れて行って・静かにさせて＞を伝えられる
- 拒否＜嫌だ・食べたくない・したくない＞を伝えられる

24

24

体調と要求を伝えることをサポートする




事例【ちづる園】

- 不快・快<体調>を伝えられる
- 欲求<テレビを見る・ベッドで休む>を伝えられる

25

25

欲求を伝えることをサポートする



事例【のんびり学園】

- 欲求<食べたいおやつ>を伝えられる
- 欲求<おかわり>を伝えられる

26

26

自分の気持ちを伝えるための支援

自分の気持ちを伝える
本人に合ったツールの活用

- 話し言葉だけに限定せず、本人にあったツールの活用
言葉・文字・絵・ドロップトーク
- IT機器の積極的活用
スマートフォン・タブレット・PC

27

27

導入・活用する上で気を付けておきたいこと

1. 本人が分かりやすく、使いやすいか
➤ 本人の発達段階にマッチしているのか
2. 支援者同士で共有されているか
3. 本人の行動から評価されているか
4. 評価を基にバージョンアップされているか

28

28

【行動】発達段階に応じた視覚情報提示



29

29

ツール活用に気を付けておきたいこと②

支援ツールは
共有する

- 事業所内で「私はドロップス Bさんは写真 何で!？」
- 家庭と
- 学校・ショートステイ先等
- **本人の暮らしやすさ・・・支援の共有（統一）が必須**

30

30

ツール活用で気を付けておきたいこと③

本人の行動から
「分かった」「伝わった」を
支援者自身が評価する

- 伝えっぱなしでフィードバックしないこと・・・???
- 分かれば「本人の行動」は良い方向に変わる
- 本人に合っていないのに「視覚支援」に固執する
- **行動の変化を評価し、ツールの更新箇所を明確に**

31

31

本人の行動から支援者自身が評価する

ツール導入後に 支援者が
評価（モニタリング）をする

事例【ちづる園】

- ① 本人が意思を示すことができたか
- ② 本人の感情を支援者が感じ取ることができたか
- ③ 本人の感情に変化が見られたか

長期入所者
50歳～80歳の方には現状の身振り等の方法を継続

32

32

ツール活用で気を付けておきたいこと④

支援ツールは
本人のスキルアップと連動して
バージョンアップする

- ツールが効果的であれば、本人のコミュニケーションスキルは向上
- コミュニケーションスキルと共に、生活・作業スキルも向上する
- 本人のスキルアップ（実態）に応じたバージョンアップを
- 特に、選択肢が何年間も固定化されている・・・見直しを

33

33

計画～実行～評価～修正 事例【夢つむぎ】

個別スケジュールへ修正
① 個別の活動と
② 個別の理解力に
合わせたスケジュール
③ 携帯できるように

午前と午後の区別をして
全体スケジュールを作ろう

① 個別の活動が異なる
② 理解力の差がある
③ 掲示場所が見にくい

全体スケジュール提示

34

34

発達障害児・者の不適応行動を改善する
コミュニケーション支援二つの視点

1. スケジュールを理解し、
見通しを持つことができる
2. 気持ち（欲求・不快・依頼・拒否）を
相手に伝えることができる

35

35

おわりに（この会の継続を願って）

自分の気持ちを
あの支援者に伝えたい！

どんな向き合い方で
どんなツールを準備して
どんな使い方をすれば
本人がそう思えるのでしょうか

36

36